



JANUS 可視分光映像カメラ

Jovis, Amorum ac Natorum Undique Scrutator



JANUS は可視13域の複数バンドのデータを得るカメラシステムです。

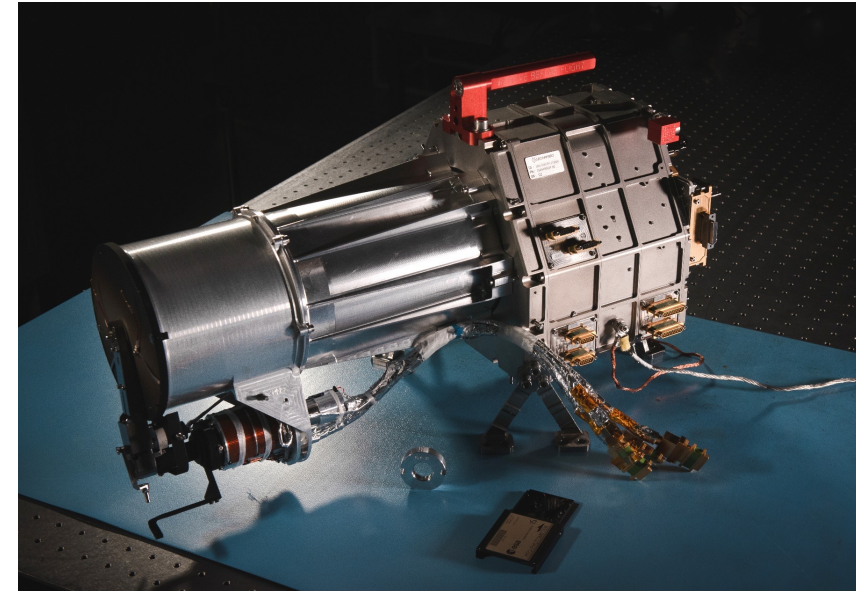
- ①惑星形成と生命出現の条件は何か
- ②太陽系環境が変動する仕組みはどのようなものか

これらの理解をめざし 木星の大気情報や、ガリレオ衛星 (主にガニメデ)の地形・地質情報を取得していきます。

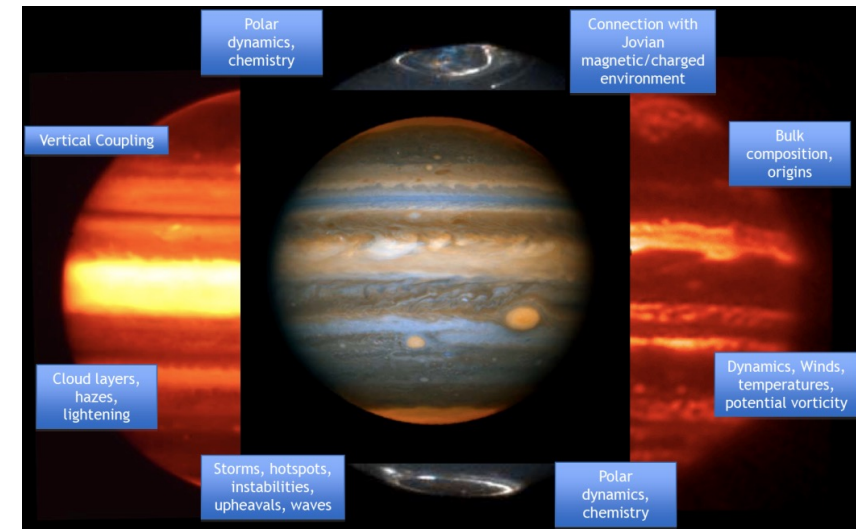
開口径 : 116 mm
 焦点距離 : 467 mm
 画角 = $1.29^\circ \times 1.72^\circ$ (along track x across track)
 検知器 : CMOS 1504 x 2000 画素
 画素サイズ : $7 \times 7 \mu\text{m}^2$
 解像度 : 7.5 m/画素 (500 km上空から)
 撮像波長域、バンド数 : 340 - 1080 nm、13バンド

JANUS日本チームは、ミッション定義、仕様策定の面で機器開発に参加してきました。今後は運用に貢献していく他、木星衛星系、木星に到達後の観測、解析に準備を進めるとともに、データアーカイブ・教育/広報の面において活動していきます。

観測ミッションにおいて、JANUS日本チームは、これまでの月惑星探査や地球観測の経験から ガリレオ衛星の地形情報の解析、木星雷観測で、JANUSチームの中心的役割を担います。



JANUS



JANUSによる木星大気観測ターゲット